

富山大学 医学部同窓会報

2022. 第31号



富山大学 医学部同窓会報

2022. 第31号



C O N T E N T S

- 4 . 会長挨拶
障害児入所・療養介護施設 あゆみの郷 施設長 田淵 英一 (医学科 6回生)
- 5 . 学部長就任の御挨拶
医学部長 関根 道和 (医学科 14回生)
- 7 . 〈ホームカミングデー〉
富山大学附属病院の使命と新型コロナウイルス感染症への対応
富山大学附属病院長 林 篤志
- 8 . コロナ禍における医療人材育成：医学教育国際認証への対応
医学部長 関根 道和 (医学科 14回生)
- 10 . 新型コロナウイルス感染症対応における看護部が果たした役割
看護部長 丸池 小百合
- 11 . コロナ禍における富山大学医学部の学生評価
医師キャリアパス創造センター 三原 弘 (医学科 21回生)
- 13 . 第14回富山大学ホームカミングデー・プログラム
- 14 . 〈大学院改組〉
令和4年度からの大学院改組の概要について
医学部副学部長 森 寿
- 15 . 大学院(看護系)の改組について
看護学科長 金森 昌彦 (医学科 3回生)
- 16 . 〈新任教授就任挨拶〉
教授就任挨拶
医学教育学講座 教授 高村 昭輝 (医学科 17回生)
- 17 . 教授就任挨拶
臨床心理・認知神経科学講座 教授 袴田 優子
- 18 . 〈退官寄稿〉
在任中には大変お世話になりました
病態・病理学講座 教授 笹原 正清
- 19 . 退官にあたり思うこと
麻酔科学講座 教授 山崎 光章 (医学科 1回生)
- 20 . 感謝
病理診断学講座 教授 井村 穰二
- 22 . 富山労災病院のご紹介
独立行政法人労働者健康安全機構 富山労災病院
院長 平野 典和 (医学科 1回生)
- 24 . 監査就任挨拶 監査心得
医学部同窓会 監事 宮林 千春 (医学科 1回生)
-

-
25. <卒業生からのメッセージ>
障害児入所・療養介護施設 あゆみの郷 施設長 田淵 英一 (医学科 6回生)
同窓会理事長 小児科学 教授 足立 雄一 (医学科 1回生)
医学部整形外科 教授 川口 善治 (医学科 7回生)
北陸電力株式会社 産業医 杉森 弘子 (医学科 17回生)
学術研究部医学系 成人看護学2 伊井 みず穂 (看護学科 10回生)
28. <訃報>
辻 陽雄先生
29. 酒井 正利先生に献杯 手稲溪仁会病院 産婦人科 小野 洋輔 (医学科 27回生)
30. 酒井 正利君を偲ぶ
群馬県立心臓血管センター 心臓血管外科 長谷川 豊 (医学科 8回生)
32. ビッグのこと〜池田宏明君を偲んで〜
獨協医科大学 内分泌代謝内科 薄井 勲 (医学科 10回生)
34. 令和3年度第40回富山大学医学部同窓会総会 議事録
38. 令和3年度富山大学附属病院関連病院長懇談会総会議事要旨
39. 令和3年度富山大学附属病院関連病院長懇談会理事会議事要旨
41. 令和2年行事報告・令和3年行事・令和4年行事予定
42. 職掌分担・評議員一覧
44. 医学部人事消息
46. 令和2年度会計報告
48. 編集後記
50. 会計からのお知らせ

表紙 「花束」 ロウケツ染

加藤 千代

染色工芸家。太平洋美術展・新人賞(1982年)、松吉賞(1984年)、太平洋美術会賞(1998年)受賞。各地工芸画廊をはじめ、日本橋高島屋(東京)、現代工芸藤野屋(栃木県佐野市)などで個展を開催している。また、1994年とちぎの美術女流作家100人展にも選ばれる。1999年銀座松屋にて個展を開く。いずれも好評を博す。栃木[蔵の街]音楽祭協力委員として地域文化活動にも貢献。縁あって本同窓会誌の表紙絵を1997年より依頼している。栃木県岩舟町在住。



会長挨拶

障害児入所・療養介護施設 あゆみの郷 施設長
田淵 英一（医学科 6回生）

令和2年10月23日（土）13時～15時に、令和3年度の富山大学ホームカミングデーが富山大学医学部（杉谷キャンパス）で開催されました。多くの関係者が日医工オーデトリウムまたはオンラインで参加され、「新型コロナウイルス感染症と富山大学の使命」というタイトルで、本同窓会理事の林龍二臨床腫瘍部教授がコーディネーターとなり、林篤志富山大学附属病院長、丸池小百合同大学附属病院看護部長、関根道和同大学医学部長の3名より、富山大学における最先端のコロナ対策医療・看護・教育が紹介されました。

私も参加させていただきましたが、富山県でも、世界レベルの最先端の感染医療・看護・教育が受けることができることを知ることができ、参加者からも多くの質問や同意、賞賛があり、とても充実したシンポジウムとなりました。富山大学付属病院が富山県民の健康を守る基幹病院として機能していることは、卒業生としても大変誇りに思います。

開催にあたっては、コロナ禍ということで準備等大変だったことと思います。富山大学関係者の皆様のご尽力に改めて敬意を表したいと思います。どうもありがとうございました。

ところで、令和3年のビックイベントは、やはり東京オリンピック・パラリンピックの開催でした。賛否両論が飛び交う中、私は開催できて本当に良かったと思っています。しかも、過去最高メダル獲得数という好成績で日本を世界に大きくアピールできたと思います。毎日が感動の日々でした。北京オリンピックも政治的な問題はありますが、オリンピック選手達のためにも是非開催してほしいと願っています。感染対策もとても大切なのですが、私たちが楽しく充実した人生を送ることの方が重要なのではと思っています。

さて私事ですが、昨年、転職して現在は医療分野で仕事をしています。大学卒業後から続けていた研究・教育分野から離れることになりましたが、これまで培ってきた知識・技術・経験は、現在もそしてこれからも活かされていくと思っています。会員の皆様も、大学卒業後、色々な道に進まれてご活躍しておられるようです。皆様の活躍の様子を是非お知らせください。会員の皆様のご投稿をお待ちしています。



学部長就任の御挨拶

医学部長 関根 道和 (医学科 14回生)

このたび富山大学医学部長を拝命しましたので、皆様に御報告申し上げます。私は、平成7年に本学を卒業して、横浜市立大学附属病院、神奈川県立足柄上病院で内科臨床に従事した後、社会医学の道に進みました。その後、ロンドン大学衛生学熱帯医学大学院で理学修士号(MSc in Epidemiology)を、ロンドン大学インペリアル・カレッジ経営大学院で経営学修士号(MBA)を取得しました。専門は社会医学と経営学です。

本年3月まで医学科長として3年間、特に医学教育の国際認証に対応した医学教育改革を行ってきました。また、地域の医師不足解消のために、データ分析にもとづいて、後期入試を廃止して前期入試と富山県一般枠(新設)に定員を振り分ける入試改革を行いました。今後も、学生の入学から卒業までをデータ分析して教育改革を行うエンロールメント・マネジメントの概念に基づいた教育改革に取り組みます。

研究面では、ロンドン大学ユニバーシティ・カレッジ、ヘルシンキ大学、富山大学の3大学による社会経済的要因による健康格差に関する国際共同研究などを行ってきました。国立大学の運営費交付金削減に伴う人員削減下で本学がプレゼンスを高めるためには、医学部の講座間の共同研究を推進して世界に挑戦することが不可欠と考えています。そのため、本年度は学部長リーダーシップ経費において講座間共同研究を推進することとしました。

社会貢献面では、本年3月まで地域連携推進機構地域医療保健支援部門長として8年間、地域と連携した地域の保健医療課題の解決に取り組んできました。例えば、富山県教育委員会と連携した小児保健の共同事業、富山県厚生部と連携した特定健診や認知症などの成人期・高齢期保健の共同事業に取り組みました。そして、その成果を市民講座の実施や施策立案への協力などにより社会に還元して参りました。

運営面では、本年3月までIR(Institutional Research)担当の学長補佐として2年間、大学戦略の策定や評価を担ってきました。例えば、教員の教育・研究・社会貢献・運営に関する各種業績を報酬に反映させるための教員業績評価制度の構築を行いました。その経験から、教員の正当な評価にもとづく活力ある組織を構築したいとの考えがあり、教育・研究・社会貢献・運営にかかる顕著な業績を上げた中堅若手教員を対象にした医学部長表彰制度を新設しました。

富山大学医学部は、1975年に富山医科薬科大学医学部として開学し、2005年の富山県内の国立大学の再編統合を経て、開学からまもなく半世紀になります。歴史ある医学部としての自覚と責任をもって、地域と世界に対するさらなる貢献が求められていると考えます。今後は、教育・研究・社会貢献・運営の好循環を作り出すことで、医学部の更なる発展に取り組んでいく所存です。

皆様のますますの御発展を祈念するとともに、今後とも御指導・御支援の程、よろしくお願い申し上げます。

▲ 富山大学ホームカミングデー2021



富山大学附属病院の使命と 新型コロナウイルス感染症への対応

富山大学附属病院長 林 篤志

2021.10.23開催の富山大学ホームカミングデーで講演をさせていただきました。講演では、この1年半の間、新型コロナウイルス感染症に附属病院がどのように対応してきたのかを具体的にお話いたしました。まず、附属病院は県内唯一の特定機能病院であり、高度な医療安全体制のもと高度先進医療を提供し、地域医療の最後の砦となる病院です。また、国指定のがんゲノム医療拠点病院であり積極的にゲノム医療に取り組んでいます。さらに医師、看護師、コメディカルなどの医療従事者の教育、育成を行うとともに、大学病院の使命である医師主導の臨床研究を実施していく病院です。当院には35の診療科とともに15の診療科を横断して診療を行うセンターがあり、患者を中心とした診療を行っています。特に今年設立したジェンダーセンターは、今の時代の要請に応えるものと期待されています。

昨年、当院は第2種感染症指定医療機関に指定されました。そして年内に外来トリアージ棟と感染症病床2床が新たに出来ます。コロナだけでなく、今後の感染症により効率的に対応できるようになります。県のコロナ対応では、感染症科の山本教授が指導的役割を果たしてくれました。当院ではECUと一般病棟をコロナ治療に使用して昨年度は167名、今年度は第5波までで185名のコロナ患者の入院治療を行いました。さらに総合診療科の山城教授に高齢者施設、障がい者施設でのコロナ対応をしていただきました。さらにワクチン接種でも市、町、県の一般住民の方の集団接種会場に多くの医師、看護師を派遣し、富山大学の職域接種にも医療従事者を派遣し貢献しました。

未知の感染症に遭遇して、本当に無我夢中ではありましたが、医師、看護師をはじめすべての医療従事者および事務職員が一致団結して各自のやるべき仕事をしっかりこなし、病院全体としてコロナに立ち向かい、第5波まで乗り越えてきました。病院職員は厳しい行動制限も守っていただき、院内感染も防いできました。病院職員の心が一つになったからこそ達成できたことであり、病院職員全員が賞賛されるべきであると思っています。このような大きな試練を乗り越えて、附属病院はさらに一段進化し、成長できたと思っています。

今後とも附属病院は、富山大学の一員として、各学部また各同窓会の皆さまとしっかり連携して富山大学の発展に貢献していきます。皆さまには、引き続き附属病院をご指導、ご支援賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



「新型コロナウイルス感染症と富山大学の使命」講演要旨
コロナ禍における医療人材育成：
医学教育国際認証への対応

医学部長 関根 道 和 (医学科 14回生)

富山大学医学部における医療人材育成

富山大学医学部は、1975年に富山医科薬科大学医学部として開学し、富山県内の国立大学の再編統合を経て、まもなく開学から半世紀になる歴史ある医学部となった。建学の理念にもとづいて、「仁の精神」をもって地域と世界で活躍できる医療人の育成を目標としており、現在までに、医師3860名、看護師1625名をはじめとして多数の医療人材を輩出している。

目標達成のために、本学は世界医学教育連盟(WFME)の基準に則った医学教育を実施し、2018年に日本医学教育評価機構(JACME)より「国際基準に適合」との認定を受けた。本学は、全国で7番目、北陸3県で初の認定校である。

国際基準で重視されているのが、コンピテンシー基盤型教育(何ができるようになるか)である。コンピテンシー基盤型教育は、従来型のプロセス基盤型教育(何を教えるか)とは異なり、卒業時点における実践的な臨床能力を保証することが大学には求められる。そこで、実践的な臨床能力を涵養するために、シミュレーション教育等の医学教育の充実を図っている。

コロナ禍における医療人材育成

コロナ禍は、医学教育を一変させた。最も衝撃的であったのはイタリアで、約10,000人の医学生を、卒業試験を免除して医療現場に投入した。英国では引退医師を現場に投入、米国では医学生をコロナ患者の診療に投入した。まさに「学徒動員」である。

それに対して日本では、感染予防対策を行った上での医学教育の質保証が求められた。しかし、医学教育は、患者さんとの接触を伴うことが多いため感染予防対策が難しく、国際基準に則ったコンピテンシー基盤型教育は困難と考えられた。

そこで、本学では、情報通信技術(ICT)を活用した新しい医学教育を開発した。例えば、1年生を対象とした「オンライン心肺蘇生法講習」である。学生は、①自宅でビデオ学修、②自宅でマネキンに対して心肺蘇生を行った様子を撮影してYouTubeに投稿、③同級生や教員がオンラインで評価する。その結果、実施前は「知識として知っているが実施したことはない」と回答した学生が多かったのに対して、実施後は「正しい方法で実施できる」と回答した学生が多く、教育の質が担保されていた。

感染症対策を担う次世代の育成も、教育機関として大事な使命である。自身の取り組みとしては、4年生の社会医学実習で、①新型コロナウイルス感染症の統計数理モデルによる将来予測を行うグループ、②BCG予防接種と感染拡大の関係を評価するグループを指導した。両グループは優秀演題賞を受賞した。また、本学は、文部科学省「感染症医療人材養成事業」に採択され、感染症の基礎臨床統合型教育プログラムを開始した。医学部と薬学部の両学部で実施し、その後、地域展開を予定している。

高い国家試験合格率を達成

最終的に、新卒者の国家試験合格率は医師97.2%、看護師100.0%、保健師95.4%、助産師100.0%と合格率は高かった。特に医師国家試験合格率は、本学史上2番目に高い値である。

これらの成果は、教職員の連携と協働なくしては成し得なかったことであり、深謝申し上げたい。また、困難な状況の中で成果を上げた学生達には敬意を表すると同時に、大変誇らしく思っている。

これからも様々な課題の解決に果敢に取り組んでいきたいと考えている。今後とも、ご支援・ご指導の程、よろしくお願い申し上げます次第である。

令和4年度 第14回富山大学ホームカミングデーの主幹・開催

次年度の富山大学ホームカミングデーを人文学部が、以下の日程で主幹・開催することになりました。詳細のプログラムは現在作成中です。

開催日時: 令和4年10月29日(土)

会場: 富山大学五福キャンパス

ホームカミングデーは、卒業生の皆様に母校に訪れていただくためのイベントです。ご友人やご家族と一緒にご参加ください。本学も昔と大分様変わりしており、アットホームな雰囲気となりました。どうか気軽にお越しください。

事前登録していただくと事務手続き上助かりますが、当日参加も受け付けております。皆様のご来場を心よりお待ちしております。